



## 浅草プロジェクト本年度で完結!

Asakusa Project has finished successfully!

— 10年に渡り浅草で—

—10-year project in Asakusa—

研究室の東京都内のプロジェクトの中で、連綿と受け継がれてきた浅草プロジェクト。下町浅草の魅力を引き出すプロジェクトの成果は確かに地元に根づいていき、今年終了を迎えました。

text\_omori

### 浅草前史—

浅草との関わりは、私が助手になりたての2002年夏学期の4年生の中心市街地活性化演習で、続いて北沢先生とともに担当したオムニバス演習で、浅草の歴史を都市デザイン的に読み解くことに挑戦しました。この成果が地元の方の眼にとまり、12月にはヒノデ新聞社から『浅草の文脈 見世の空間文化』を出版させていただきました。

そして、2003年になって、この本がきっかけとなり、当時、建設中のつくばエクスプレスの出入り口ができる予定であった小さな商店街、浅草ロックフラワーロードの商店街会長・小林昌司さんからお声をかけて頂き、街路リニューアルデザインの仕事に取り組むことになりました。1年くらいかけて、商店街の皆さんと議論を重ね、

慶応義塾大学 専任講師 中島 直人  
最終的には路面、街路灯、車止め、銘板等のデザインを岡本くん(現UDCK副ディレクター)と担当し、つくばエクスプレスの開通に間に合わせました。合わせて商店街の名前も「浅草六区花道」に変更になりましたが、これは私たち二人のアイデアでした。

そのような活動を主に浅草六区で行っていたのですが、次に声をかけてくれたのは、言問通りより北の観音裏と呼ばれる地区で一葉桜の植樹運動を展開し、地元へ振興会を立ち上げたようとしていた象潟町会長の細川清さんでした(2007年)。ここから、観音裏、そして今に続く「奥浅草」(細川さんら地元の町会長さん達と私達とで取り組んだ勉強会で発案)での活動が始まったのです。

### 2007年からPJ本格化

#### 2007 まちづくり提案



奥浅草の歴史資源や産業分布についての調査、奥浅草の魅力を引き出す修景デザイン・活性化イベントの提案など幅広く活動。



### 2009～2011 光月町周辺



材木問屋街の旧「光月町」で子供向け木工教室「光月工房」を実施。地元の江戸っ子のおじいちゃんたちが大活躍!



お西さまで有名な驚神社に面した国際通りで、子供たちとシャボン玉イベント。

### 2008 産業活性化提案



聖天町の皮革産業など地場産業に着目した活性化やミュージアムの提案。集客や宿泊など、観光活性化に注力。店舗や作業場、路地裏のリノベーションも具体的に提案。



### これからが本番

text\_maeakawa

先日、「光月工房、最初はうまくいくか半信半疑だったよ」と話してくれた、光月町のおじさん。今では何人も常連の子供がいて、片付けまで手伝ってくれることもあります。来年はスカイツリーの開業と共に、奥浅草一帯にとってもこれからが本番、というところだと思います。奥浅草での活動は、まちのみなさんのやる気に圧倒されながら自分のできることを考え続けて色々教わった2年間でした。そして光月町の第2ステージの始まり、これからも応援したいと思います。

### 江戸っ子の「粋」

text\_omori

今年度で東大としては活動を終えるという事を、光月町のおじいさん達に伝える時は、つらいものがありました。しかし、長老格の細川銘木店会長が「私らは自分達でやっていけるように独り立ちしないといけない、これも東大さんの親心だよ」と仰ってくれた時、江戸っ子の「粋」を感じました。奥浅草は都市空間としても魅力的ですが、何よりも関わって下さる方々が皆個性的です。中島先生は慶応大学のゼミ生と引き続き奥浅草での活動を続けられるとのことで、大森としては個人的に参加したいと思います。

# プロジェクト着実に進行中

## Projects have advanced steadily

佐原プロジェクトでは震災からの復興をテーマに建物公開と合わせたパネル展示が行われました。神楽坂プロジェクトはシンポジウム、高山プロジェクトは住民ワークショップ。年末も研究室は大忙しです。



### 佐原 SAWARA-project プロジェクト

### — 「佐原の原動力展」開催 —

香取市佐原では、12月3日(土)・4日(日)に「佐原の町並み建物特別公開」が開催され、佐原PJチームも、このイベントに合わせて、「佐原の原動力展」と題したパネル展示を行いました。これは、東日本大震災から200日以上が経過した佐原の現状に着目し、被災後の地域の助け合いや、被災後の断水時に役立った井戸の分布や活用実態の調査結果をまとめたものです。8月に開催した「底力展」で好評だった特大航空写真や、震災後の新聞記事を時系列に並べたパネルなども追加調査を踏まえて展示しました。展示会場としてお借りしたのは、土屋家主屋という景観保存地区内にある江戸時代後期に建てられた建物で、明治25年の大火を逃れて現存する、佐原でも数少ない貴重な建物です。建物公開は佐原の重伝建地区および景観保存地区の歴史的建造物の内部を公開するイベントだったため、地

元や近隣の方のほかに、初めて佐原を訪れたという方も見られました。その多くが、損傷を受けた建物や崩れた護岸などの被害状況を目の当たりにして驚かされていたようです。震災に関する記憶を途切れさせないためにも、被害の実態や復興へ向かう過程について記録することの重要性を再認識しました。

また、地元の方にも足を運んでいただき、お話を伺う中で、震災が地域のつながりや観光のあり方を再考するきっかけになったという声が多く聞かれ、そういった小さな意識の変化や気づきが地域の中に芽生えていることを念頭に置いて活動していきたいと強く感じました。今後は、震災以前から取り組んできたまちの回遊性向上について引き続き考えていくと同時に、古い町並みを中心とした佐原の魅力・可能性を整理・再発見し、提案に繋げるべく、新たな調査を行っていく予定です。

M1 安東 政晃



▲パネル展示風景



▲江戸時代築造の土屋家主家



### 神楽坂 KAGURAZAKA-project プロジェクト

M1 仲村 貴文

10月29日(土)に「国登録文化財とまちづくりシンポジウム」が開催され、神楽坂の現状とまちづくり活動における登録文化財の活用の仕方について、メンバーの神原と吉田が発表しました。その後、発表を踏まえたパネルディスカッションでは来場者も含め活発な議論がなされ、神楽坂を熱く語る一日となりました。そして11月15日(火)の第4回勉強会では、松井が「文化財を生み出すまちの力」というテーマで花街と文化財の関係について発表しました。花街の影響を受けた文化的景観が残る神楽坂で、開発による変化とどう向き合っていけば良いかという問いは、様々な議論を呼び起こしました。花街を意識し独自にアレンジした黒壁などは、果たして景観として適合するのかなど、なかなか内容の深い勉強会となりました。その内容を踏まえ、1月24日(木)に最後の勉強会として登録文化財の在り方についてのワークショップを行う予定です。



### 高山 TAKAYAMA-project プロジェクト

建築学専攻 伊藤研究室 八賀 俊一郎

11月24日(木)からの3日間にわたり、高山市長倉集落でWSを行いました。WSでは高山PJチームが今までにまとめた調査内容を発表し、地域の方々と集落の魅力や資源、課題などを発見し共有するとともに、それらを踏まえて今後の集落のマネジメント計画の方向性を検討しました。具体的には課題を解決し資源を生かすためのアイデアを数十枚の「アイデアカード」にまとめ、地域の方々に実行したいと思うものに投票してもらうという形で議論を進めました。今回のWSを踏まえてどのような計画をどのように実行すべきかを考え、地域の方々と実際に行動にうつしていくことが今後の活動の主軸となります。

今までに春、夏と長倉集落を訪問し、今回は秋の訪問でした。訪れるたびに四季折々の素晴らしい景観を我々に提示してくれる、また一つ長倉集落の魅力に気付かされることとなった訪問でした。



▲花街建築の分布を述べるD3松井 ▲登録文化財について発表する吉田・神原



▲アイデアWSの様子

▲秋の棚田と焼岳を望む

## Information

### 1月の予定

- 12月27～1月7日 ルンビニPJ現地調査
- 1月20日 第14回研究室会議
- 1月21～22日 大槌PJ現地調査

### ✧ 編集後記

大森 文彦

今号は自分が関わった浅草PJを全面に推し、一面の基調も浅草PJのロゴである一葉桜にちなみ、ピンク色にしました。それほど浅草に惚れ込んでしまった大森です。さて、都市デザイン研究室に来てからは、本当に学ぶことが多く、また様々な経験を積むことができ、周囲の皆様には感謝してもきれないくらいです。先生方には深い洞察を、先輩方には多くの先見を授けていただきました。学部生時代とは比べものにならない、本当に充実した2011年でした。ありがとうございました。